

都市再生整備計画 事後評価シート
宮若地区(第三期)

令和6年2月

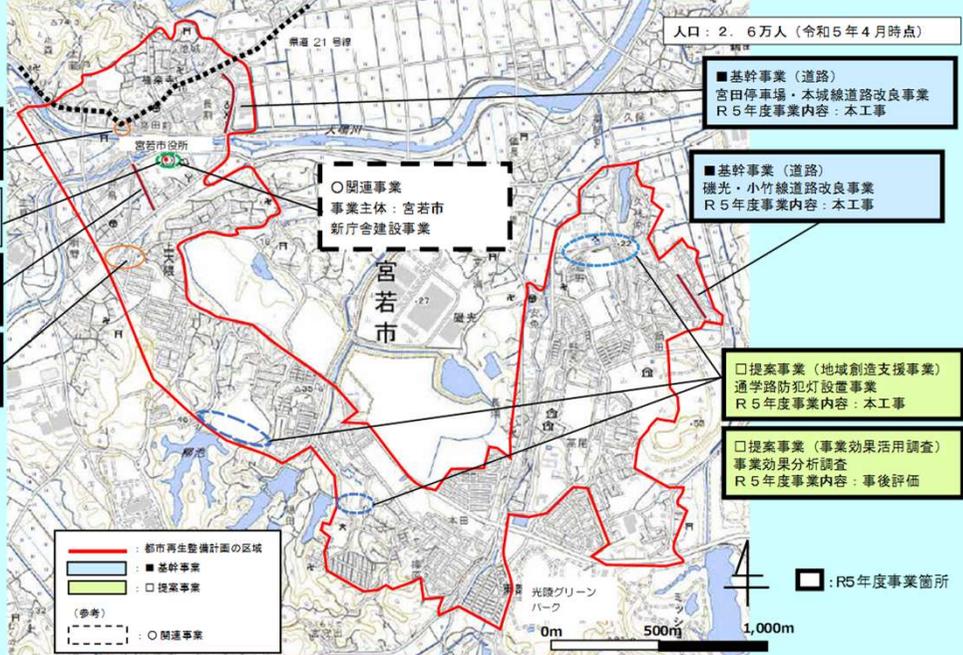
福岡県宮若市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県		市町村名	宮若市		地区名	宮若地区(第三期)			面積	282ha		
交付期間	令和1年度～令和5年度		事後評価実施時期	令和5年度		交付対象事業費	502.2百万円	国費率	40%				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(宮田停車場・本城線道路改良事業)、道路(片鉢・天王寺線道路改良事業)、道路(磯光・小竹線道路改良事業)、地域生活基盤施設(新庁舎前連携交流広場整備事業)、地域生活基盤施設(筑前宮田駅跡広場整備事業)										
		提案事業	地域創造支援事業(通学路防犯灯設置事業)、事業活用調査(事業効果分析調査)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路(本城水源ポケットパーク整備事業)、地域生活基盤施設(犬鳴川河川公園駐車場整備事業)	削除/追加の理由			当該計画地にある民間事業者の建物について、移転協議が難航し事業見込みが立たないため事業を削除する。						
		提案事業	—	—			—						
	新たに追加した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(宮田バスセンター整備事業)	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			老朽化が激しく、所有・管理しているJR九州バス(株)が、停留所建物の解体を計画しているが、その後、停留所を更新する計画はない。行政機能が集中している最も近いバス停としての機能を保持していくため						
		提案事業	—	—			—						
交付期間の変更	当初	令和1年度～令和5年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			—							
	変更	—	—			—							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度					
	指標1	身近な憩いの場やレクリエーションの場としての公園や広場についての満足度	%	22.4	H30	32.0	R5	—	29.5	△	あり	● 市民が身近に利用できる、憩いの場・レクリエーションの場を創出するため「新庁舎前連携交流広場整備事業」を進めたことで、従前の評価よりも高い満足度を得ることができたが、満足度調査時点では「筑前宮田駅跡広場整備事業」「宮田バスセンター整備事業」の完了に至っておらず(完成見込み)、目標の達成に僅かに至らなかった。	R6.10頃
	指標2	公共施設の利用者数	人/年	209,524	H29	215,312	R5	—	198,309	×	あり	● 新庁舎周辺の広場整備により、中心拠点に立地する公共施設(中央公民館、文化センター、マリールーム、リコリス図書館)の利用促進を図るとともに、周辺道路の改良によるアクセス性の向上による利用環境の向上を進めたが、新型コロナウイルス感染症による人の移動自粛・制限等により、公共施設の利用者が減少し目標達成には至らなかった。	R6.10頃
指標3	身近な道路の歩きやすさや交通安全対策と自動車などにより日常で利用する生活道路の整備についての満足度	%	29.7	H30	35.0	R5	—	35.0	○	あり	● 生活道路の安全性向上を図るため「通学路防犯灯設置事業」や道路事業として「宮田停車場・本城線道路改良事業」「片鉢・天王寺線道路改良事業」「磯光・小竹線道路改良事業」を進めた。「宮田バスセンター整備事業」の他、道路事業においても一部未完成区間が残るものの(完成見込み)、整備の進捗・成果が見えたことで市民の評価・満足度の向上に繋がりが目標達成に至った。	—	
										なし			

	指標		従前値		目標値		数 値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
		単位		基準年度		目標年度	モニタリング	評価値				
3) その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	その他の 数値指標1	—	—	—	—			—			—	—
	その他の 数値指標2	—	—	—	—			—			—	—
4) 定性的な効果 発現状況	島原城や商店街に関する事業や島原市の中心部に関する道路事業等によって、中心部の活性化や賑わい創出が図られている。											
5) 実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等	
	モニタリング		・交付期間中の計画管理				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	目標達成に向けて確実に事業を進めていく。
	住民参加 プロセス		・継続的な活動 ・自主防災拠点としての機能促進				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	継続的に防災拠点における活動を推進していく。
	持続的なまちづくり 体制の構築		—				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					—

様式2-2 地区の概要

宮若地区(第三期)(福岡県宮若市) 都市再生整備計画の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 都市機能がコンパクトに集約された中心部の多機能拠点づくり 目標1 中心部の憩いの空間形成のための広場の創出 目標2 施設間連携を図り新たな賑わい拠点の形成 目標3 中心拠点へのアクセスがしやすい道路環境の形成		身近な憩いの場やレクリエーションの場としての公園や広場についての満足度	%	22.4	H30	32.0	R5	29.5	R5
		公共施設の利用者数	人/年	209,524	H29	215,312	R5	198,309	R5
		身近な道路の歩きやすさや交通安全対策と自動車などにより日常で利用する生活道路の整備についての満足度	%	30	H30	35	R5	35.0	R5
 <p>片鉾・天王寺線道路改</p>  <p>新庁舎前連携交流広場整備</p>		 <p>人口：2.6万人(令和5年4月時点)</p> <p>■ 基幹事業(地域生活基盤施設) 宮田バスセンター整備事業 R5年度事業内容：設計・本工事</p> <p>■ 基幹事業(地域生活基盤施設) 新庁舎前連携交流広場整備事業</p> <p>■ 基幹事業(道路) 片鉾・天王寺線道路改良事業 R5年度事業内容：本工事</p> <p>■ 基幹事業(地域生活基盤施設) 筑前宮田駅前広場整備事業 R5年度事業内容：本工事</p> <p>○ 関連事業 事業主体：宮若市 新庁舎建設事業</p> <p>■ 基幹事業(道路) 磯光・小竹線道路改良事業 R5年度事業内容：本工事</p> <p>□ 提案事業(地域創造支援事業) 通学路防犯灯設置事業 R5年度事業内容：本工事</p> <p>□ 提案事業(事業効果活用調査) 事業効果分析調査 R5年度事業内容：事後評価</p> <p>□ : R5年度事業箇所</p>		 <p>宮田停車場・本城線道路改良</p>  <p>磯光・小竹線道路改良</p>  <p>通学路防犯灯設置</p>					
まちの課題の変化		<ul style="list-style-type: none"> ・定住人口の継続的な増加に向け、住みたい、住み続けたい魅力づくりのための中心部の賑わいづくりが求められている。 ⇒市民の憩い・レクリエーションの場となる広場等の整備を進めているが、完了に至っていない事業があるため引き続き整備を進める。また、整備した広場等を活用したイベント等の開催・周知が必要となる。 ・着実に道路整備を進めているが、中心拠点付近や通学路に未整備路線が残っており、特に児童や障害者の通行に支障が生じていることから、中心部の拠点との連携強化のための道路環境強化が求められている。 ⇒道路整備及び街灯整備を進めることで、安全性、道路環境の向上が図られている。一方で未完了区間が残っているため、引き続き整備を進め更なる道路環境の強化が必要となる。 ・第1期計画で宮若リコリスが整備され、また、新庁舎整備が進められている中で、これらを中心拠点として一体的な利用を促進するための空間形成が求められている。 ⇒庁舎前広場が完成し、中心拠点としての機能強化が図られた。今後は、整備した広場の活用が求められる。 ・普段の生活の中での活用に加え、防災に関する意識を高め、自主防災組織の活動及び災害時の拠点として多機能性を持たせることが求められる。 ⇒庁舎前広場の整備により、防災に係る活動の場の創出が進められた。活動促進を図り地域の防災意識向上に務める必要がある。 							
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)		<ul style="list-style-type: none"> ・賑わいの創出・持続に向けた取組として、施設の統廃合等を検討するとともに、空き家・空き店舗、低未利用地の有効活用を進め地区の活性化に資する取組を行う。 ・本計画で整備した区間の他、必要に応じて継続的な道路改良を進め、更なる道路環境の向上を図るとともに、経年劣化が進む道路についても改修を行い住環境の維持を行う。 ・交通結節機能の構築、道路整備による周遊機能の強化を図り、中心拠点の施設利用環境の強化、集客機能の向上を進め、更なる賑わい向上を目指す。 ・アンケート調査等によって得られた地域住民の要望等を今後のまちづくりに繋げていくために、地域一体のまちづくりを進め、住民満足度の向上を目指す。 							